

1. た・づ・な

BTC 創立 20 周年にあたって

財団法人
軽種馬育成調教センター
理事長

伊藤 克己



軽種馬育成調教センターは、平成 3 年 3 月 15 日に「強い馬づくり」に資するための財団法人として設立され、ここに 20 周年を迎えました。

昭和 56 年の第 1 回ジャパンカップ施行から平成 18 年パート 国入りまでに、実に 25 年を経過しています。競馬の国際化への対応の必要性が認識され始めてから実に多くの方々の情熱と、実現に向けてのご努力があったものと思ひ、深く敬意を感ずるものであります。

国際化への対応の根幹は、強い馬づくりであります。そのための施策の数々がこの間に手を打たれ、時間をかけながら着実に成果を挙げてきたのではないのでしょうか。

パート 入りしたことですべてが成就した訳でなく、生産・育成・競馬の現場では、これからも日々の努力と前進が要求されることと思ひます。

当財団は、競走馬の資質の向上に関する調査研究と育成調教技術者の養成及び育成調教技術の改善・普及等の事業、また、それら事業のステージとしての育成調教施設の運営・管理を事業として行う公益財団法人として、軽種馬の生産段階からの強い馬づくり体制の推進と確立のために、この時代の機運の中で設立されました。

平成 5 年に開場した日高軽種馬調教場は、徐々に利用頭数が増加し平成 12 年では延べ 99,000 頭、一日平均 318 頭、一日最高 453 頭であったものが、10 年経過した平成 22 年には、延べ 178,773 頭、一日平均 575 頭、一日最高 778 頭となりました。

当初は、場内の滞在馬房だけから出発したものが、調教場を徒歩で利用できる近隣に、西舎共同育成場を始め民間の育成馬用馬房が建設され、その数は、年毎に増加していき、昨年末には 850 を超える数となりました。

調教場を利用する育成者は、この施設の利用方法を、暗中模索の段階から、よりよい調教効果が得られるよう工夫を重ねられ、優秀な競走成績を残す幾多の育成馬を育成されてきました。この育成者の皆さんの努力の結果が、利用頭数の増加と安定に結びついているものと思ひます。利用者の皆さんが、安全・安心して利用出来るよう、私たち BTC 役職員は、適正かつ効率的な運営管理を行い、施設の万全な保全と保守に努めてまいりました。

この調教場運営管理業務は、日高育成牧場から委託業務として行ってきましたが、平成 22 年から当財団が自主的に運営管理することとなりました。

軽種馬の競走能力の向上に関する調査研究事業は、調教場利用馬の診療や検査を通して得られた若馬のトレーニング後の疾病データを蓄積し取りまとめて疾患の早期発見、早期治療に役立てるとともに順調な調教を行うための一助として疾病予防の普及を図っており成果を得ているものと考えています。

技術普及誌 BTC ニュースは、年 4 回発行し皆様に親しまれていることと思ひます。

育成調教技術者の養成事業は、平成 11 年から 3 年間アイルランドから専任の指導者を招へいし外国人スタッフによる教育を行い、その方式を当財団の独自の方式として、1 年間の養成期間で即

戦力となれる育成技術者を育て送り出してきました。これまでの卒業生は 366 名となっています。卒業生は卒業後に就職先の牧場のご理解により競走馬育成協会が実施している約3カ月のアイルランドでの実践研修にも参加でき、技術の更なる向上と見聞を広げ技術者としての能力の練磨を行うこともしております。

また、近年は、軽種馬関係への就労希望者の減少が顕著であり、牧場での人手不足が大きく取り上げられており、この対応として関係団体で連携して情宣活動を行っていくなど力を入れています。

軽種馬用の牧草及び牧草地等の土壌の分析・調査研究事業は、平成5年から開始し牧草と土壌を合わせて約一万7千件、利用した実農家数712家で、複数年に渡って分析を継続している農家もあり、良質な粗飼料生産の一助として利用されており、又平成18年には「強い馬づくりのための草地管理ガイドブック」を作成し、平成20年からは、生産地における研修会を開催しています。

引退名馬けい養展示事業は、牧場や民間の施設でけい養されている引退名馬に対して飼育費の一部を補助する形で助成金の交付を平成9年から始めました。当初は2ケタであった頭数も平成16年には100頭を越し、平成23年初には243頭になりました。年毎に増加する頭数に対して、援助を頂いてきた関係団体からの助成金・寄付金が不足することが顕著となってきたため、平成19年から5年間の計画で、全国競馬・畜産振興会の助成を得ることとなりました。事業は、競馬ファンや一般の方に大変なご理解と応援を頂いている事業であり、今までご協力を頂いた各団体には、深甚の感謝を申し上げますと共に引き続きご協力を賜りますようお願いする次第です。

創立20周年を迎えて、この10年の歩みを振りかえってみました。この間、ご支援を頂きました日本中央競馬会・関係団体の皆様を初め、調教場を積極的に利用して頂いた利用者の皆様に感謝を申し上げますと共に、競馬サークルを取り巻く環境が一段と厳しさを増すなかではありますが、21世紀の日本の競馬のため、役職員一同、事業推進にまい進する所存であります。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。